



当院院長の「おたふくかぜワクチンを接種しましょう」が
『広報ごしょがわら7月号』(pdfページ21)に掲載されました。

是非、ご覧ください。



おたふくかぜワクチンを接種しましょう！

こどもクリニックおとも 院長 小友 勇人 先生



ワクチン後進国といわれ続けた日本も、2013年以降、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、水ぼうそうワクチン、B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチンと次々に定期接種(公費負担)となりました。ヒトパピローマウイルスワクチン(子宮頸がんワクチン)もようやく「接種の積極的勧奨」が再開され、積極的な接種勧奨が差控えられていた期間に接種機会を逃した平成9年度から17年度生まれの方へのキャッチアップ接種も進んでいます。しかし、諸外国で定期接種に組み込まれていながら、いまだに日本では定期接種でないワクチンがいくつかあります。その代表がおたふくかぜワクチンです。

おたふくかぜにかかると、熱が出て、耳の下の耳下腺というところが腫れて痛くなる病気で、自然に治るという印象があると思います。しかし、おたふくかぜには多くの合併症があります。有名なのが、無菌性髄膜炎です。約50人に1人の割合で起こり、強い頭痛や吐き気、嘔吐でとてもつらい思いをします。まれに脳炎を発症することもあり、障害が残ったり死亡したりすることもあります。思春期以降にかかった場合には、精巣炎や卵巣炎も心配されます。

あまり知られていませんが、重大な合併症に難聴があります。1,000人に1人程度の割合で永久的な感音性難聴になって、多くは片方のみですが、まれに両側性の場合もあります。日本耳鼻咽喉科学会は2018年に、2015年～2016年の2年間に少なくとも359人がおたふくかぜによって難聴になったと発表しました。

諸外国で定期接種が当たり前のおたふくかぜワクチンが、なぜか日本では任意接種で自己負担がかかります。しかし、合併症のリスクを考えるとぜひともワクチンを接種して予防したい病気です。適切な時期は、1歳時と就学前1年間の2回接種となります。MRワクチン(麻疹、風疹)と同時に接種するのが良いと思います。それ以外の時期でも、また小学生以上の成人においても、まだかかっていない方にはぜひワクチン接種をお勧めします。

「ワクチンさえ接種していれば、こんなことにはならなかったのに…」ということにならないためにワクチンで防げる病気はぜひ予防したいものです。

